

北海道大学総合博物館

ボランティア・ニュース

No.13

2009.6.30

会報

第7回 ボランティア総会開催

会長 在田一則

第7回ボランティア総会が下記のように開催されました。総会の議題、議決事項と内容については既にメール等で連絡したとおりです。ここでは要旨だけを記載します。

日時:2009年5月29日(金)16:00-17:30

場所:ボランティア室

参加者:18名

議題

1. 会長挨拶
2. 2008年度活動報告および2009年度活動方針
 - (1)各グループの活動
 - (2)会の活動(談話会、観察会など)
 - (3)ボランティア・ニュースの発行
3. 会則の改正
4. 役員
5. その他

ここでは、今回の重要な議題である、「3. 会則の改正」と「4. 役員」の議決内容についての要点を記載します。

「3. 会則の改正」は、2008年度からのボランティアの会と博物館との新しい在りかた(関係)の変更に基づくものです。改正された会則はすでに連絡したとおりです。従来の会則では、「会員の資格」が「博物館のボランティア活動員全員がボランティアの会の会員」でしたが、新会則では、「ボランティア活動員でかつボランティアの会に入会を希望する者」となった点です。その他の条項は、ほとんど従来どおりです。

「4. 役員」は、会の役員(事務局員およびボランティア・ニュース編集委員)の改選結果です。事務局員は、在田会長、永山、寺西、安田の4名の留任と加藤典明(地学)、米田友祐(昆虫)の2名の新任が承認されました。また、編集委員は、星野委員長、沼田、永山、安田の4名の留任が承認されました。

会議に引き続き懇親会を行いました。出席者は22名で、他に HUISA(北海道大学留学生協議会:<http://www.huisa.net/>)の3名の出席もありました。

特別寄稿

北大名誉教授であり、博物館資料部研究員でもある加藤 誠氏から「長尾先生」にまつわるお話の寄稿がありました。長文であり、今後4回に分けて掲載する予定です。

「長尾先生ってどんな方?」、まずは、以下の第1回分をお読みください。

北大の総合博物館には、貴重な標本が沢山保管されています。化石の標本の中では、大きさといい、知名度といい、最高級であるのは、デスモチルスとニッポノザウルスの2つの標本でありましょう。この両方とも、故 長尾 巧(タクミ)教授の研究になるものです。昭和天皇が北大に行幸された折、長尾先生は、デスモチルスについて、天皇陛下に説明されたと聞いています。

北大の理学部は 1930 年に出来ました。長尾先生は、その地質学鉱物学科の地史学および古生物学講座の初代教授でありました。福岡県田川のご出身で、1891 年 3 月 9 日に生まれ、東京高等師範を卒業後、山口県岩国中学や鹿児島師範の教師を経て東北大学に入り、故 矢部長克教授に師事、1921 年、理学部地質学科を卒業と同時に講師になりました。1927 年から 2 年間、フランスで在外研究に従事し、この間に理学博士の学位を受け助教授に昇進。1930 年、北大理学部創設とともに、教授として札幌に赴任されました。それは血気盛んな 30 代であったことになりす。他の新任教授連も皆若かったそうです。



長尾先生
(1936 年 45 歳頃)

長尾先生を有名にしたのは、北九州の炭田地質の研究です。石炭とそれを挟む地層が、何時、どのような場所で形作られたか？ それは、石炭層の出来た

海岸の湿地のようなところを中心に、貝を含んだ海が何度も出たり入ったりを繰り返した状況を明らかにしたことであったのです。これは古第三期の地層の研究としては出色のもので、日本の堆積相解析研究の始まりとなる仕事だったのです。この研究は、地学雑誌に何回にもわたって連載され、「大菩薩峠」とあだ名されました。当時有名だった中里介山という作家の長編時代小説「大菩薩峠」からの連想でした。

長尾先生は高師時代は博物学科で、佐藤伝蔵先生に習われて、地質学に興味をもたれたようです。当時帝国大学へは、高等学校出身者しか入学出来ませんでした。高校は正統派であって、その他は傍系と呼ばれていました。高等師範や、高等工業出身者や、女性には門戸が閉じられていたのです。これを破ったのは、東北大学と北海道大学でした。大正から昭和の初めにかけてのことですが、当時の学生には、こんな事情もあって年輩者が多かったのです。私の父は東北大学ですが、このような経歴の一人です。入学当初から、地質学について、かなりの経験も知識も持っており、何より強い勉学の意志の持ち主でした。

長尾先生は、はじめ鉱床学を志されたようです。しかし恐らく出身地が大炭田地帯であったことにもよることでしょうが、後に炭田地質を専攻されることとなりました。もっとも、あまり化石ことは興味がなかったそうですから面白いものです。しかし調査の途次、沢山産出する貝化石を扱うことになり、これが地質年代や、地層の堆積環境の指標として有用であったのです。

----- つづく

次回ではいよいよ北大理学部創設と長尾先生との関わりについてのお話です。

各分野の活動紹介・お便り

博物館図書ボランティアが発足

昨年 10 月頃、北海道大学総合博物館からの働きかけがあり、図書ボランティア・グループが発足しました。博物館中央部二階には旧理学部図書室がありま

図書ボランティア 沼田勇美

す。そこが博物館図書室です。この図書室には地質・鉱物・鉱床、植物、昆虫、古生物、歴史学、博物館学などに関する図書が所蔵されています。これらの図書

は北大図書館を通じて登録されています。図書修理、図書室整備、維持にボランティアが活躍しています。現在は、配架作業が終わり、傷んだ図書修復作業を行っております。また最近、全国の博物館などにバ

ックナンバーの雑誌送付依頼公文書発送を始めました。約10名のメンバーが天野研究室の小野裕子資料部研究員を中心に活躍しており、博物館らしい図書室が徐々に整備されつつあります。

チェンバロボランティア活動

チェンバロボランティア 新妻美紀

ポプラチェンバロが博物館に展示され3年が経過しようとしています。その間、水永牧子さんによるコンサート・レクチャーが度々開催され、北大交響楽団プロジェクト演奏会も3回行われましたが、現在その他の企画も検討中です。

チェンバロボランティアは17名が登録されていますが、ボランティア活動も、この1年で定着してきており、毎週木曜日の午後2時から小さな演奏会を定期的に行っていますが、来館者が多数来られる時期には臨機応変に対応しています。それ以外にも有志の方に演奏の協力を得て声楽、古楽器によるバロック合奏の演奏会も定期的に行っています。

小さな演奏会では、チェンバロが盛んだった頃のルネッサンス・バロック期で活躍した各国の作曲家の作品を紹介しながら、来館者の方々とお話しをするなど毎回和やかな雰囲気の中で当時の素敵な曲をポプラチェンバロで再現し、ボランティアとして皆さんにお伝え出来るとても充実した活動をさせて頂いています。

チェンバロは湿度40～70%が適しているのですが、乾燥する冬場はスタッフの方が毎日湿度に配慮して下さるほどメンテナンスの面ではとてもデリケートな楽器で、弾く前はいつも「今日はどのような状態なのだろう」という思いになるほど本当に生きている楽器であると実感します。

梅雨のない北海道はチェンバロに適しているという事ですが、やはり日々変わる天候、気温で最近では弦の戻りが激しく、製作者の横田氏からアドバイスを受けた方と一緒に弦を巻いているピンの部分の補強、弦の張り替え、弦をはじくツメのつけ替え等を行いました。こういったチェンバロの構造も把握しながら、子どものように大切にしていきたいです。

これからも、北大のシンボルであったポプラから楽器として蘇ったチェンバロがますますよい響きを作り出してくれるようチェンバロを弾くことが、チェンバロボランティアとしても楽しみなところですよ。

お便り

2009年3月まで、化石および展示解説の学生ボランティアであった田中嘉寛さんから、就職先の福井自然史博物館での活躍状況を伝えるお便りがありました。

博物館のうらがわへ！ 福井市自然史博物館ボランティアの試みー

前化石・展示解説ボランティア 田中嘉寛

私は2009年3月に北海道大学を卒業し、4月より福井市自然史博物館に勤めています。在学中は博物館ボランティアとして展示解説や化石レプリカ作成をしていました。本稿では福井市自然史博物館ボランティアの新しい活動を紹介します。

福井市自然史博物館は JR 福井駅のすぐ西南にある足羽山に建っています。市民に親しまれる博物館として、およそ60年前に開館しました。



福井市自然史博物館

福井市自然史博物館ボランティアは「フィールド調査時の補助スタッフ」「博物館行事の補助スタッフ」「キッズのためのプレゼント作製」「川原の石ころ図鑑づくり」「植物・昆虫標本の作製と整理」「骨格標本の作製」の6分野に分かれています。私は骨格標本作製ボランティア(通称「骨部」)を担当しています。骨に魅せられたおよそ10名の博物館ボランティアが毎週土日に活動しています。

私は福井自然史博物館に「展示解説」ボランティアがないことに着目し、この骨部と共に展示解説を行う「博物館うらがわツアー」を試みています。ツアー参加者の多くは博物館のうらがわ(作業室や収蔵庫)の存在を全く知らず、初めて見るものに興味津々、満足している様子がアンケート結果からわかりました。

ツアーは毎回私がアテンドし、博物館ボランティアと打ち合わせ、反省会を行っています。特に反省会は

活発で、博物館ボランティアから出たアイデアを取り入れることもよくあります。常に改善されてゆく「博物館うらがわツアー」は2ヶ月間で計14回開催し、75名の参加者をアテンドしました。解説する博物館ボランティアにとっても、打ち込める活動になっているようです。

この「博物館うらがわツアー」のベースは、在学中に北大博物館ボランティアとして多くの方々からいただいたアドバイスがベースになっています。湯浅万紀子先生、小林快次先生、北大ボランティアのみなさん、博物館職員のみなさん、研究室の仲間にも厚くお礼申し上げます。学生にも展示解説をする機会があり、博物館についてじっくり学べることも大学博物館の優れた点だと思います。そのような環境で過ごせた事を嬉しく思っています。

博物館事務からお知らせ

事務部係長(博物館担当) 江島正博

1. 構内入構証について

本年1月から、大学構内へ入構する車両については原則有料化となりました。現在、パスカードは、本年4~9月の期間は無料となっておりますが、本年10月以降はICカードの導入を予定しており、その際には、改めて申請いただき、ICカードの新規発行手続きに2,000円/台の経費を負担していただくとのことです。また、一時的に大学構内へ入構する場合は、総合博物館事務室に業務用の構内入構証が用意されており、事前にご連絡をいただければ貸し出すこともできますので、その場合は早めにご連絡をお願いいたします。

2. ボランティア室の鍵について

ボランティア室(3階 N302号室)を使用する場合、事務室で鍵を借りてください。その際、鍵貸出簿に必要事項を記入してください。

3. コピー機の使用について

4月から2階共同研究室前のコピーを使用する場合、専用のコピーカードをボランティア室の本棚に置いてあります。使用する時、コピー機横に備え付けの記録ノートに記入してください。

なお、事務室内のコピー機よりも、2階のコピー単価のほうが安いので多量コピーは2階の機械を使用するようにご協力のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

今回は、いつも紙面づくりを担当している永山の都合が悪く、代わりに安田が担当したために、いつもと違った雰囲気紙面となりました。ご了承ください。

ボランティア・ニュースは博物館のホームページからもご覧になれます。

<http://www.museum.hokudai.ac.jp>

ボランティア・ニュース

編集・発行
北海道大学総合博物館ボランティアの会
(担当者:星野、沼田、安田、永山)
発行日:2009年6月30日
連絡先
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目